

科目名 クラス 講義区分

アジア共同体論 <秋>

【教員氏名】

大島 一二
研究室:聖アンデレ館 11 階 1130 号室
メールアドレス:oshima12@andrew.ac.jp

【授業形態】

講義 プレゼンテーション

【講義・演習概要】

ワンアジア財団による寄付講座である。
近年、東アジア・東南アジアを中心にアジア地域と日本との経済的な結びつきが急速に深まっている。また、文化や人の交流も活発化しており、グローバル化の中で、東・東南アジアの経済社会の「一体感」が感じられるようになってきている(例えば、K-POP や AKB48・SNH48・JKT48 を見よ)。しかし一方で、ヨーロッパとは違いアジア諸国の間には、経済発展の程度や政治体制、使用言語などに大きな差がある。つまり、アジアは非常に多様な姿を持っている。ここにアジアを考える難しさがある。
本講義では、経済・政治・社会・文化などアジアのさまざまな分野について研究している講師をお招きし、「多様なアジア」「一体化するアジア」の現状や展望についてお話していただく。そこから、「アジア共同体」のアジア経済の発展における意義と課題について考えていきたい。

【学習目標】

アジアの経済・政治・社会・文化について学び、「多様なアジア」「一体化するアジア」と「アジア経済の発展」についての理解を深める。

【講義計画】

第 1 回:ガイダンス
本講義は、毎回異なるゲスト講師(学内および学外)によるインテグレーション科目である。
以下には、予定されている講義テーマについて記す。
秋学期開始時まで、各回の講師と講義テーマについて確定したスケジュールを発表する。
なお、講師の都合によりスケジュールは変更されることがある。
第 2 回:日本の対外直接投資とアジアの経済発展
第 3 回:中国・アジアへの企業進出と課題
第 4 回:アジアにおける日本企業の現地化の課題
第 5 回:アジア地域からの技能研修生の受け入れと課題
第 6 回:アジアの金融システム安定のための課題と国際協力
第 7 回:アジアの経済協力の新展開
第 8 回:アジアにおける安全保障と協力
第 9 回:アジア共同体と安定的な食料供給システムの構築
第 10 回:アジアの環境問題と国際協力
第 11 回:中国・アジアの生態環境問題と日本
第 12 回:日本の大衆文化開放(韓国)と韓流ブーム(日本)
第 13 回:インドネシアにおける日本と韓国のポップ・カルチャーの人氣
第 14 回:東アジア共同体構想の可能性と課題
第 15 回:アジア共同体の未来

【成績評価の方法】

試験評価:50% レポート:50% 出席:0%
講義内容にもとづくレポートを 1 回課す予定である。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

【準備学習の指示(事前学習 30 時間、事後学習 30 時間)】

テレビやインターネット・新聞・雑誌などで、アジア諸国のニュースに関心を持ってほしい。

【その他備考(担当教員用)】

授業中に私語をするなど、受講態度が悪いと判断される場合は、ただちに退室を命じることがある。悪質な場合、その場で「不合格」を宣告することもあるので、くれぐれも注意されたい。
経済学部アジア・ビジネスキャリアプログラム(ABCP)参加者は、原則としてこの科目の受講を必須とする。

【備考(管理者用)】

(経済学特講-アジア経済の発展とアジア共同体の役割)02~15E・

CBCC 生読替☆(経営学特講-アジア経済の発展とアジア共同体の役割)02~16B 生読替☆インテグレーション科目